

## 初級文型応用表現練習法 (3)

(初級文法研究会)

安齋幸枝 小野正樹 蒲谷 宏  
今野尚子 竹内信人 久光直子  
深田嘉昭 星崎幸子 松木正恵

はじめに

本稿は、初級文型応用表現練習法 (1), (2) (『講座日本語教育』第 25, 26 分冊) に続くもので、日本語学習者に初級文型の自然な用法を習得させるための練習方法を、その文型の用法上の特色・指導上の留意点などとともに示したものである。目的、記述の形式など前回までと同様であるが、今回は早稲田大学初級日本語教科書の第 30 課から第 40 課までの文型(及び指導項目)を扱っている。

今回までで一応初級日本語教科書の全課を扱ったことになるわけだが、今後に残された課題は多い。これまで示してきた練習方法を実際の授業で試行し改善していくこと、さらに新しい練習方法を開発していくことも必要であろう。その際に、そもそも「文型」とは何か、「自然な用法」とはどういうことなのか、「表現練習」の「方法」としてはどのようなものが考えられるのか、といった言語教育における基本的かつ本質的な問いかけをしていくことを忘れてはならないと思っている。

---

\* 本稿に用いた略号は、次のとおりである。

T...教師 S...学習者 N...名詞 Aj...形容詞 AjN...いわゆる形容動詞  
Adv...副詞 V...動詞 Vi...自動詞 Vt...他動詞  
A, B, ...いくつかの品詞が入るときの総称

未熟な段階で公にしたのも初級教育を考えていくための一つの叩き台になればとの願いからであった。どのような観点からでもご教示いただければ幸いである。

## 66. N (人) を / に V せる / させる

N<sub>1</sub> (人) に N<sub>2</sub> (事柄) を V せる / させる (使役) (L30)

一口に使役と言っても、意味的には“誰かに何かを無理やりさせる”“誰かに何かをするように仕向ける”“誰かが何かをするのを許す”などいろいろな場合があるが、文型としては次の二つの型がある。

### a) 自動詞の文型

N (人) を / に V せる / させる……V は自動詞

例 弟を走らせました。弟に行かせました。

### b) 他動詞の文型

N<sub>1</sub> (人) に N<sub>2</sub> (事柄) を V せる / させる……V は他動詞

例 息子に有名中学の入学試験を受けさせました。

a) の文型では行為をする人 (N) を「を」「に」の両方で示すことができるが、「を」を使うと命令・強制、「に」を使うと許可のニュアンスが出る。従って、まれに N が無生物主語である場合には、「に」ではなく「を」を用いることになる。

また、「子供に歩道を歩かせる」は b) の文型に似ているが、「歩く」は他動詞ではなく自動詞なので、これは b) の文型ではない。通過する場所を示す「を」と a) の文型が一つになる場合には、行為をする人を「に」で示すのである。例えば、a) の例文に「公園」という場所を加えると、「弟に公園を走らせました」となる。このように、2つ以上の名詞句をとる場合には、V が自動詞か他動詞かにはかかわりなく、「(人)に(事柄・物)をV せる / させる」というような助詞の使い方をするのが一般である。たとえ強制してさせた行為であっても、「弟を公園を走らせました」と「を」を二つ重ねて使うことはない。

さらに、「泣かせる」「笑わせる」「びっくりさせる」「怒らせる」「喜ばせる」「心配させる」などは、使役の形だが、相手にそのような行為をすると意図的に指示したわけではなく、こちらの行為がもとで結果的にそういう状況になったという意味である。

例 兄はいつもしゃれを言っでは人を笑わせる。

わたしは大学を何年も留年して両親を心配させました。

なお、使役を指導する際に注意しておかなければならないことがある。それは、目上の人が対象である場合や、ある行為をすることを願うような場合には使役は使えないという点である。この場合には、L20 で学習した「43. V てもらう」を使うとよい。

例 漢字がよくわからなかったので、紙に書いてもらいました。

書き上げた論文を先生に見ていただきました。

実際、現実の場面では、行為をする人のほうが行為をさせる人よりもよほど年下か(地位的に)目下でない限り、使役は現れにくい。従って、表現練習をさせる場面も、先生と生徒・親と子・課長と社員・監督と選手・親方と弟子……などのように明らかな上下関係が前提となっているものでなければならない。

(練習方法 1)

場面を教室(先生と生徒)・家庭(親と子)・会社(課長と社員)・グラウンド(監督と選手)・相撲部屋(親方と弟子)……などに設定し、何人かで寸劇を演じる。ナレーターが一人出て、「誰が誰に何をさせたか」について劇を見ながらそのつど解説をする。劇はせりふがあってもいいし、ジェスチャーだけでもかまわない。ナレーターは交替制にする。だんだん劇の進行をはやくして、ナレーターが瞬時に使役表現を口にせざるを得なくなるよう訓練する。

例 相撲部屋

「親方が弟子を座らせました。」

「親方は弟子に話を聞かせています。」

「今度は親方が弟子を立たせました。」

「親方が弟子に準備体操をさせています。」

「弟子を二人ずつ組ませます。」

「二人ずつで練習させるのでしょうか。」

「ここでちょっと弟子たちを休ませます。」

「親方はおかみさんにお茶を運ばせました。」

「親方は弟子の一人に自分の肩を揉ませています。」 etc.

### (練習方法 2) 関白宣言

関白を一人決め、その人に対して、現在身の回りの世話をどうしているのか、またはこれから身の回りの世話をどうするのか、みんなが質問を浴びせる。関白は自分では何もやらないことを強調するため、周りのいろいろな人たちにやらせている、またはやらせるつもりだというように返答する。

例 S<sub>2</sub> 「いつも食事はどうしていますか。」

S<sub>1</sub> 「もちろん妻に作らせていますよ。」

S<sub>3</sub> 「シャツやくつ下は自分で洗うんですか。」

S<sub>1</sub> 「いいえ、とんでもない。妻に洗わせるに決まっていますよ。」

S<sub>4</sub> 「広い書齋を持っているそうですが、掃除が大変でしょうね。」

S<sub>1</sub> 「いやあ、掃除は娘にさせていますから。」

S<sub>5</sub> 「庭の芝生の手入れも手がかかるでしょう。」

S<sub>1</sub> 「さあどうでしょう。息子にやらせますから平気ですよ。」

S<sub>6</sub> 「車はご自分で運転なさるんでしょう?」

S<sub>1</sub> 「いいえ、運転手に運転させます。」 etc.

### 67. 一ほうがいい (L30)

「ほうがいい」には、話し手の意見として、より適当な選択を示す用法と、その発展として、相手に直接何かを提案したりアドバイスしたりする用法とがある。形容詞・形容動詞を受ける場合や「名詞+の」の場合には



前者の用法が多い。また、動詞を受ける場合でも、動詞の現在形を受けるか過去形を受けるかによってニュアンスに差が出ることもある。

a 「イギリスに行くよりフランスに行くほうがいい。」

b 「イギリスに行くよりフランスに行ったほうがいい。」

a は自分の希望を述べる前者の用法に、b は相手に何かを勧める後者の用法になりやすいという傾向がある。

(練習方法 1)

T が困った状況を挙げ、S がそれについての解決策をアドバイスする。アドバイスは思いっくままにいくつ言ってもいい。

例 T 「旅行に行って道がわからなくなりました。」

S<sub>1</sub> 「地図を見たほうがいいです。」

S<sub>2</sub> 「交番で聞いたほうがいいです。」

S<sub>3</sub> 「人に道を聞いたほうがいいです。」

(練習方法 2) 品物選び

店で洋服・装飾品・靴・バッグ・食器・家具などを購入する場面を設定する。店員に対して客が自分の好みを一つずつ伝え、店員はそれに応じてふさわしい品物を次々に見せていくというもの。品物を実際に用意するのは無理なので、あらかじめ何枚も絵をかいておき、それを客の好みに合わせて見せていくとよい。予想外の注文が出て、好みに合わせる絵がなかったら、そのような品物はないということで商談を終わらせるか転換させるかする。あらかじめ用意した絵ではなく、その場で客の注文に合わせて絵をかいていく方法もある。この方法だと、商談を際限なく続けられ、いつまでもたっても満足しないわがままな客を演じさせることもできる。

例 宝石店で

客 「プレゼントにする指輪がほしいんですが。」

店員 「どんなのがよろしいですか。今なら、真珠がお買い得になっておりますが。」

客 「できれば誕生石の指輪のほうがいいんですが。」  
店員 「何月生まれですか。」  
客 「12月生まれです。」  
店員 「それじゃ、トルコ石ですね。……これなんかいかがですか。まわりにダイヤがついていてきれいでしょ。」  
客 「ええ、でも、ダイヤはついていないほうがいいんです。」  
店員 「じゃあ、これはどうですか。トルコ石が大きくて立派でしょう。」  
客 「あの、もう少し石が小さいほうがいいと思うんですが。こんなに大きいとちょっと派手すぎて……」  
店員 「そうですか。……これは本当は5万円の品なんですけど、今日の目玉商品で特別に4万円にしています。これならそんなに派手じゃないと思いますけどね。いかがでしょう。」  
客 「そうですね。できれば、もっと安いほうがいいですねえ。」  
.....

### (練習方法 3)

病院・法律事務所・教育相談所やその他いろいろな種類の相談窓口でアドバイスを受ける場面を設定する。「なければいけない」(義務)→「(なく)てもいい」(許容)→「ほうがいい」(提案・勧告)というような話の流れを作って練習させると、「ほうがいい」のニュアンスも把握しやすく、既習の文型の復習にもなっている。

#### 例 病院で

医者 「あした、退院してもいいですよ。」  
患者 「えっ、本当ですか。ありがとうございます。それじゃあ、もう普通の生活をして大丈夫なんですね。」  
医者 「いや、まだそれは無理ですよ。まだ完全には骨がくっついていませんから、絶対に走ってはいけません。それに、階段の上り下りにも十分注意したほうがいいですね。」  
患者 「実は、今度の連休に社員旅行があるんですが、行ってもいいで

しょうか。」

医者 「バスで移動するだけなら問題ありませんが、長い時間山道を歩いたりはしないほうがいいでしょう。」

患者 「病院にはこれからも通わなければなりませんか。」

医者 「ええ、週に3回リハビリに来てください。」

患者 「えっ、3回もですか。そんなに来なければいけないんですか。」

医者 「まあ、忙しければ2回でもいいですが、できれば3回来たほうがいいと思いますよ。」

患者 「食べ物は何を食べてもかまわないんですか。」

医者 「そうですね。できるだけカルシウムの多いものをたくさん食べてください。牛乳は、一日に500ccぐらい飲んだほうがいいですよ。」

患者 「あの、お酒を飲んではいけませんか。」

医者 「まあ、別に飲んでもかまいませんが、そんなにたくさんは飲まないほうがいいでしょうね。」

#### 68. 一ようにする (L30)

「一ようにする」はこれから何かを意図的に行うことを表す。変化しながらも既にある状態に達していることを表す「一よくなる」(L29)と好対照である。

- a 「アメリカに一年間もいれば英語が話せる一よくなりますか。」
- b 「自分から積極的に話す一よくなれば、きっと話せる一よくなるでしょう。」

のように「一ようにする」と「一よくなる」とを対照させてうまく説明できるものもあるが、

\*c 「一生懸命に勉強する一よくなると、合格する一よくなります。」

のように不自然な表現になるものもあるので注意が必要である。

なお、「一ようにしている」は意図的な行為の結果、それが習慣化されつ

つあることを表している。

(練習方法 1)

「V てください」「V ないてください」(L14)「V ほうがいい」(L30)を使った文を T が言い、S がそれを受けて、「ようにする」「ようにしている」を使った文で言い換える。

例 T 「毎日二時間ずつ日本語の勉強をしてください。」

S<sub>1</sub> 「はい、これから毎日二時間ずつ日本語の勉強をするようにします。」

T 「真夜中に大きな声で話さないください。」

S<sub>2</sub> 「はい、これから話さないようにします。」

T 「健康のためには、バスに乗らないで、なるべく歩いたほうがいいですよ。」

S<sub>3</sub> 「そうですね。これからなるべく歩くようにします。」

S<sub>4</sub> 「ええ、今はなるべく歩くようにしています。」

(練習方法 2)

T がある状況について S に質問したり忠告したりする。S はそこから判断して自由に「ようにする」「ようにしている」の文を作って T に答える。

例 T 「先週のテストの成績はあまりよくありませんでしたよ。」

S<sub>1</sub> 「どうもすみません。今度からもっと勉強するようにします。」

T 「熱が 38 度もあるんですが、大丈夫でしょうか。」

S<sub>2</sub> 「今日は家でゆっくり休むようにしてください。」

T 「おばあさんはいつもお元気ですね。」

S<sub>3</sub> 「ええ、睡眠を十分にとるようにしていますし、食べ物にも気をつけるようにしているんです。」

69. 一はずです (L31)

「はずです」は、これまでの知識や経験、習慣、または何らかの強い背景に基づいて個人的な期待や確信を表す表現である。何も根拠がなくても

勝手に予想を述べることのできる「でしょう」との違いはこの点にある。練習でも、「はずです」が使えるだけの根拠がはっきりした場面を設定する必要がある。

(練習方法)

T がまずある事実を述べ、次に、それを根拠に何かを推量している文を途中で言います。S は自分の判断でその文を完成させる。

例 T 「ひかり3号は10時に新大阪に着きます。今10時半だから……」

S<sub>1</sub> 「もう着いたはずですよ。」

T が S に何かを質問する形もとれる。この場合、判断の根拠となる事実をもう一人の S がつけ加えていくという三者掛け合いの方法もある。

例 T 「お父さんはコンサートが始まる時間を知っていますか。」

S<sub>2</sub> 「きのう私が話しました。」

S<sub>3</sub> 「きのう私が話しましたから、知っているはずですよ。」

#### 70. 一つもりです (L31)

「一つもりです」は、あることをする意向を持っていることを表す。「う／よう」や「たい」が意志・希望の直接的、瞬間的な表現であるのに対し、「一つもりです」はその気持ちを客観的、持続的にとらえる点が特徴的である。

(練習方法)

チェーンドリル方式で、今日これからの予定・長期休暇の計画・将来の進路などについて自由に問答する。前の人と同じ動詞を使ったらペナルティを課すなど、ゲーム感覚で行うとおもしろい。

例 T 「今日の午後は何をしますか。」

S<sub>1</sub> 「友達と映画に行くつもりです。S<sub>2</sub>さんは今度の日曜日はどうしますか。」

S<sub>2</sub> 「わたしは鎌倉に行ってお寺を見るつもりです。S<sub>3</sub>さんはゴールデンウィークはどうするつもりですか。」

S<sub>3</sub> 「特に予定はありません。家でゆっくり休むつもりです。S<sub>4</sub>さん

の夏休みの予定を教えてください。」

S<sub>4</sub> 「まだ決まっていません。去年はカナダに旅行するつもりでしたが、体をこわして行けませんでした。今年こそ行きたいと思っ  
ていますが、まだわかりません。S<sub>5</sub>：さんは夏休みにどこかに行き  
ますか。」

S<sub>5</sub> 「どこにも行くつもりはありません。……」

## 71. 一ようです

—らしいです (L31)

「一ようです」「らしいです」の違いについてはさまざまな研究があるが、初級段階では、「一ようです」が直接情報を、「らしいです」が間接情報をもとにした判断であることを学習させればよい。どちらも使えるような場面での両語の細かいニュアンスの違いなどにはまだ立ち入らずに、どちらかしか使えないような特徴的な用法から教えたほうがよい。

(練習方法 1) 「一ようです」

直接情報を与えて「一ようです」を使って判断させるような場面を考える。

- ① 写りのよくない写真を見せて誰なのかを当てさせる。→「この人は中国人の一ようです。」
- ② 録音した音を聞かせてその場所を当てさせる。→「アナウンスの内容から考えて、ここは空港の一ようです。」
- ③ 後ろから声をかけて声の主を当てさせる。→「あっ、その声はマリーさんの一ようですね。」
- ④ 目隠しして触感で物を当てさせる。
- ⑤ ゼスチャーをして何の動物かを当てさせる。
- ⑥ 匂いを嗅がせて何かを当てさせる。etc.

(練習方法 2) 「らしいです」

間接情報を与えて「らしいです」を使って判断させるような場面を考える。

例 S<sub>1</sub> と S<sub>2</sub> が会話をし、それを傍受した S<sub>3</sub> がその内容を S<sub>4</sub> に告げる。

S<sub>1</sub> 「お体のぐあいはいかがですか。」

S<sub>2</sub> 「ありがとうございます。きのう一日ゆっくり休んだらすっかりよくなりました。」

S<sub>3</sub> 「S<sub>2</sub>さんは体のぐあいが悪かったようですよ。」

S<sub>4</sub> 「へえ、そうですか。もう大丈夫なんですか。」

## 72. 一かもしれません (L31)

「一かもしれません」は確信の度合いが低いことを表すが、現実の場面では、確率がゼロに近い場合から7, 8割と思われる場合までかなり使用範囲が広い。しかし、初級段階では、「でしょう」より確信の度合いが低い表現として取り上げておいたほうがよいだろう。

(練習方法 1)

「ようです」の練習のときに用意した材料より、もっとわかりにくいものを用意し、「一かもしれません」を使って推量させるような場面を考える。例えば、写りのさらによくない写真・音がよく聞き取れない録音テープ・複雑な匂いのするものなど、確信の持てないような品物がよい。もちろん、「ようです」の①～⑥をそのまま使っても、判断に自信がなければ「一かもしれません」と表現することは可能である。

(練習方法 2)

「はずです」などと関連づけて、「一かもしれません」の特徴を明らかにさせる。

例 S<sub>1</sub> 「山本さんは12時の新幹線に乗るそうです。」

S<sub>2</sub> 「それではここに4時までに着くはずですね。」

S<sub>3</sub> 「乗り換えがうまくいけば、3時半頃に着く一かもしれません。」

(以上、松木正恵担当)

## 73. と / ば / たら / なら (L32～L35)

1. 順接条件の表現である。それぞれの特徴を練習方法の前に簡単にまとめておくが、この使い分けが正しくできるようになることは、上級の学習者にとっても難しいことではないだろうか。それぞれの特徴を記憶して

も必ずしも自然な表現となるわけではない。教育の現場でも、「迷ったら、“タラ”を使え。」という教師の本音がよく聞かれる。語の使い方を正しく身につけるといふ目的から考えると、ト、バ、アラ、ナラ、すべてをうまく使い分けられることが理想ではあるが、実際のコミュニケーションでは、そのすべてが使えなければならないということではない。したがって、初級後半のレベルでは、その使い分けの練習として、できるだけ多くの表現をさせて、理屈ではなくイメージとして条件表現の自然な使い方を体得させ、コミュニケーションの障害とならない程度の実力を育成することが目的となる。その際に、個人の得意な表現、不得意な表現ができてもさほど問題とすることではないと考える。そのため、応用段階の練習では、自然なコミュニケーションを実現し、自分自身の自由な表現の中で練習することが適当であると考えられる。

• それぞれの特徴

[と]

- 後件に話者の意志的な表現、驚きを表わす表現は来ない。
- 条件とその帰結が、必然的、反復的である。

[ば]

- 前件に状態表現以外の動的な述語が来る場合、後件に意志的な表現が来ない。
- 過去に起こった出来事を述べる場合にはつかえない。
- 表現に想定的な意味合いが強い。
- 発見したことを表す表現はできない。

[たら]

- 後件が独立しているので、制約が無く、意志・禁止・希望などの表現もできる。
- 現象が原因、結果的にとらえられた表現となる。
- 話し手の視点が後件にあり、後件が強調され、発話の中心となる。



[なら]

- 絶対に起こることを条件として扱うことができない。
- 後件に、話し手の要求、意志、価値判断などが来ることが多い。
- 発見、過去の出来事、過去の習慣の表現は来ない。

(練習方法 1)

基本的な形の練習が終わり、ト・バ・タラ・ナラの形を正しく言うことができるようになったところで、

旅行、パーティー、などの計画をクラス全体でさせる。

T 「では、まず司会者を決めましょう。だれがいいですか。」(指名する)

S<sub>1</sub> 「司会だったら(なら・ならば) S<sub>2</sub>さんがいいと思います。」

T 「では S<sub>2</sub>さん、次のお休みに何をするか決めてください。」

S<sub>2</sub> 「次の休みにクラスのみんんで何かしたいと思います。何かいい考えがありませんか。」

S<sub>3</sub> 「お天気がよければ、ハイキングがいいと思います。」

S<sub>4</sub> 「……」

教師は学生が使ってはいけないもの、もしくは不自然な表現を使ったときのみ注意を与え、それ以外はとくに指示を与える必要はない。会話が止まってしまうそうになったときのみ、「……は大丈夫ですか。」などと会話を広げること、もしくは、新しい条件を付け加えることを心がければよい。

(練習方法 2)

「風が吹けば桶屋がもうかる。」と板書し、教師はこの諺について、一つ一つの段階を単純な文で板書しながら学生に説明する。ただし、この諺が学生のレベルに合わないほど難しい場合には、教師が同じような諺を作って説明する。その際、できるだけ多くのト・バ・タラ・ナラを使うように心がける。次に、学生に同じような文(諺)を作らせ、それについて説明をさせる。この説明のとき、ト・バ・タラ・ナラの同じものを続けて使ってはいけないなどの規制を加えるとより多くの形を使えるのでよい練習とな

ると考えられる。

• 板書の例 (自作の諺の場合)

「雨がふると酔っぱらいます。」

1. 雨がふります。
2. 服がぬれます。
3. とても寒いです。
4. かぜをひきます。
5. 頭が痛くなります。
6. 勉強ができません。
7. テストで悪い点数をとります。
8. 気分が悪くなります。
9. お酒を飲みます。
10. 酔っぱらいます。

このような板書をして、それぞれをト・バ・タラ・ナラでつないで諺の説明をする。その後で学生に紙を配り、板書と同じように単純な文のつながりを書かせる。その後でその諺を発表(もしくはつないだ形で作文)させる。その際、学生のレベルに応じて文の数を調節すると無理の無い練習となる。「風が吹けば桶屋がもうかる」に関しては、練習の後で説明をしたほうが、理解しやすいかもしれない。

(練習方法 3)

ト・バ・タラ・ナラを使った文で、学生に順番に会話を続けさせてゆく。

ここでは前の人が使ったもの(ト, バ, タラ, ナラ)を続けて使ってはいけないと注意をしておく必要がある。

S<sub>1</sub> 「明日晴れたら公園へ行きましょう。」

S<sub>2</sub> 「公園へ行くならお弁当を持って行きましょう。」

S<sub>3</sub> 「コンビニで買えばいいですね。」

S<sub>4</sub> 「買うと高いですよ。自分達で作らしましょう。」

S<sub>1</sub> 「自分達で作るのなら、国の料理を作りましょう。」

S<sub>2</sub> 「……」

(練習方法 4)

学生にアドバイスを求めて、返ってきたアドバイスを新しい条件を付けることによって、無効にし、新しいアドバイスをさせる。なれてきたら学生同士 (1 対 1, グループ対グループ) でやらせる。

T 「S<sub>1</sub> さん、夏休みにあなたの国に行こうと思うんですが。」

S 「そうですか。先生が来るのなら、私がいいホテルを予約しておきます。」

T 「でも、お金があまり無いんです。」

S 「お金だったら大丈夫ですよ。私の国は物価がとても安いんです。」

T 「それでもホテルはもったいないですねえ。」

S 「そうですか。それなら私の家に泊まってください。」

T 「でも、私が行くときに S<sub>1</sub> さんは日本でアルバイトじゃないですか。」

S 「……」

74. V う / V よう と思います (L33)

動詞の意志形である。「～たい」の表現と違い、「～と思っている」の表現では人称の制限はないが、自分の意志を表わすことが最も自然であり、基本的なものとなること、「～と思います」の形では一人称を示すことが多いなどの理由から、ここでは一人称での練習を考慮することとする。

(練習方法)

まず、学生を二つのグループにわけるとして、もし来週一週間が休みだとしたら何をするか、それぞれのグループに休みの計画を作らせる。一つのグループにそれについてインタビューし、他のグループの学生にそれをあきらめさせるようなことを言わせる。

T 「お休みには何をしますか。」

G<sub>1</sub> 「来週の休みには京都へ遊びに行こうと思います。」

G<sub>2</sub> 「どうやって行くんですか。」

G<sub>1</sub> 「新幹線で行こうと思います。」

G<sub>2</sub> 「新幹線は高いですよ。」

G<sub>1</sub> 「学割を使おうと思っていますから大丈夫ですよ。」

G<sub>2</sub> 「でも夏の京都はとても暑いですよ。」

G<sub>1</sub> 「……」

∴

T 「G<sub>1</sub> の人たちはどうしますか。」

G<sub>1</sub> 「やっぱり図書館で勉強しようと思います。」

条件表現を使って、ある条件が果たらどうするかを表現させることも良いかと考えられる。(ただし、会話が短くなってしまう。)

(以上、深田嘉昭担当)

## 75. N (人) が V れる / られる

N<sub>1</sub> (人) が N<sub>2</sub> (人) に V れる / られる

N<sub>1</sub> (人) が N<sub>2</sub> (人) に N<sub>3</sub> (事物) を V れる / られる (受身) (L36)

一つの事象を表現する際に、能動態、受動態、どちらの形式をとるかは、話者の関心の中心が、その事象にかかわる動作・作用の主体に置かれるか、あるいは動作・作用の結果に置かれるかによって決定される。例えば、強盗が銀行の金を盗んだという出来事について日本語を母語とする話者が述べる時、その銀行の行員は「強盗に金を盗まれた」と表現するのが自然であろうし、警察官は「強盗が銀行の金を盗んだ」と言うのがふつうであろう。しかし、この関心の中心が置かれる表現上の焦点を決定する要因は話者の個別的な状況だけではないようだ。つまり、一つの事象を表現するときに受身表現を選択することが適切であるかどうかはそれぞれの言語によって必ずしも同一ではない。この点が、結局、教えるときに一番むずかしいのだが、残念ながら今後の課題として残っている。いまここでは、日本語で受身表現が使われる典型的な場合の練習を学習者に与える。

迷惑・被害の受身：周知のように、受けた行為や作用について、迷惑・被害を被ったという感情を込めて述べる場合にしばしば受身表現が使われる。

中立の受身（利害に関係のない受身）：中立の受身表現の中で一般的によく使われるのは行為の主体が不特定多数の場合である。その種の表現は新聞・放送等の報道関係や書籍・雑誌等の記述に典型的に使用されている。

（練習方法 1） いろいろ 110 番——討論形式

いわゆる「110 番」への被害届けといった形のグループ練習である。次のような手順で行う。

1. S には下記のような実例を事前に与えて、宿題として、訴えるべき被害を考えさせておく。
2. S は被害者の役 (S) と解答者の役 (S) との両方をつとめる。T は双方の間の司会者的役割をして討論の流れを調整する。
3. 初めに学生達からいろいろな(五つ位まで)被害状況を訴えさせる。
4. 被害を聞いて、学生の各人が自分に答えられる問題について解決策を与える。
5. 討論形式なので、途中いろいろな意見が出る方が望ましい。

例（被害の訴え）

T 「みなさんは日頃の生活の中でいろいろ困っている問題があると思います。それらの問題について経験豊富な方々からお知恵を拝借したいと思います。その状況を簡単におっしゃってください。問題が出そろったところで解決法に移りましょう。」

S<sub>1</sub> 「私は主婦です。週に三日は、退屈しているとなりの家のおじいさんに家に来られて、三時間も四時間も居すわられ、どうにもなりません。」

S<sub>2</sub> 「うちの裏手は幼稚園の庭なのですが、しょっちゅう子どもたちにボールをぶつけられて、家のあちこちをこわされます。でも、うちの子どもが無試験で入園させてもらったんで、言いにくいんです。」

S<sub>3</sub> 「小企業の社長ですが、社員に休まれたり、やめられたりして困っているんですが……」

#### 例（解答）

答えるまえに、T も S も既出の内容をもう一度受身表現で発話する。解答者は被害者に更に詳しい説明を求めてもよい。

T 「では、どの問題からでも結構です。解決法をお願いします。おじいさんに居すわられる主婦、家をこわされる人、社員にやめられて困る経営者など、いろいろ相談されましたが、どうでしょうか。」

S<sub>1</sub> 「社員にやめられるということについて答えます。……」

S<sub>2</sub> 「おじいさんに家に来られるという奥さんにお答えします。……」

S<sub>3</sub> 「家をこわされても言いにくいという点ですが、……」

以上は「生活 110 番」タイプのものである。その他、「子ども 110 番」「外国人 110 番」「有名人 110 番」(芸能人、スポーツマン、政治家、文化人等になったつもりで)等の状況設定で練習できるが、状況自体を学生に設定させるのもよい。

#### (練習方法 2) 立場変われば——スキット

同じ一つの行為や出来事が、それを受け取る側の立場によって、本当にありがたいことにもなるし、また逆にありがた迷惑にもなるという状況設定でスキットを創作し、演じる。出演者は 2 人から数人。各人の話すセリフは二つ程度。学生は親切な行為をする人 (S<sub>1</sub>)、その行為に感謝する人 (S<sub>2</sub>)、迷惑する人 (S<sub>3</sub>~S<sub>3</sub>) の役割を分担する。

#### 例 1 席をゆずられて

(電車の中)

S<sub>1</sub> 「どうぞ、おかけください。」

S<sub>2</sub> 「そうですか、ありがとうございます。」

.....

S<sub>2</sub> 「どうもありがとうございました。ゆずっていただいて、ほんとに助かりました。私はここでおりますから。」(S<sub>2</sub> はおりる。)

S<sub>1</sub> (元の席にすわってから)「つめればもう一人すわれますよ。どうぞ。」

S<sub>2</sub> 「どうも。」(すわる。じきにねてしまう。間もなく S<sub>1</sub> はおりて行く。)

S<sub>3</sub> (目を覚まして)しまった! 乗り越した! 終点だ! (時計を見ながらとび出して行くところで一段落。)

(見物人に向かって)席なんかゆずられて、とんだ目にあつた。終点まで連れて行かれて、おまけに戻る電車がなくて、タクシー代を12000円とられたよ。」

## 例 2 雨の日曜日

(部屋の中。夫婦 (S<sub>1</sub> と S<sub>2</sub>) が友人 (S<sub>3</sub>) と電話で話す。S<sub>3</sub> は通話の声だけ。)

S<sub>1</sub> 「いやあ、残念。雨に降られて、ゴルフに行けなくなっちゃったよ。今日はきみやれるのを楽しみにしてたんだ。」

S<sub>3</sub> 「うん、僕もそうなんだが、この降りじゃ無理だ。」

S<sub>1</sub> 「まあ、いいか。せっかくの日曜なんだから、うちでゆっくり休もう。あ、ちょっと、家内がきみと話したいって。」

S<sub>2</sub> 「もしもし、ごぶさたしております。いつも主人が大変お世話になってまして……」

S<sub>3</sub> 「いや、こちらこそ。今日は雨に降られちゃいまして……」

S<sub>2</sub> 「いいえ、雨が降ってくれて、私、喜んでおりますのよ。主人と車でデパートへ行こうと思っておりますの。もう半年も前から部屋のカーテンを変えなくちゃと思っておりましたんですけど、なかなか二人で選びに行く間がなくて……。あれで、主人、インテリアにはうるさいんですのよ。」

この練習方法もスキットを作らせるまえに、例題を使って予行練習をしておく方がよい。また、同様のアイデアをもっと簡単な方法にして、例えば T が「宝くじで一千万円当りました。そしてどうなりましたか。」とい

う問いを出し、S が「ありがた迷惑」的な結果になる答えを受身で与えてもよい。

### (練習方法 3) 生産過程——叙述形式

ものの生産過程やものごとの成り行きをその段階ごとに示している写真または絵を用意して、それを見せながら推移の過程を説明していく。中立の受身を使つての叙述である。

例 「パンのできるまで」(小麦が畑にまかれるところから始める。品物は一般的なものでもよいし、日本の例として餅やこけし人形など民族的なものでもよい。学生には自国の特産物などを紹介させるといいだろう。)

「ポチがドッグショーで優勝するまで」「手紙が私に届くまで」

この練習方法で困難な点は適当な写真や絵などの教具をそろえることである。これが準備できない場合には、下記のように、多少幼稚な擬人法になるが、討論形式の「もの達の身上話」にすることもできる。

例 S<sub>1</sub> 「ぼくはパン屋のウィンドーに並べられているパンです。ぼくの両親はカナダの畑にまかれた小麦です。」

S<sub>2</sub> 「私はドッグショーで優勝した美女のプードルです。美しい毛並み、整ったスタイルや歯並び、芸のできる知性、きれいな服装などをほめられました。」

S<sub>3</sub> 「私は一通の手紙です。いま、シンガポールから日本に来たタンさんの机の上にあります。一週間前にタンさんのおかあさんの心と手から生まれました。その時はまだ封筒の外にいました。」

このように「もの」たち全員が一通り、自己紹介をした後、現在に到るまでの経緯を下記のように受身表現で語る。討論形式なので、途中互いに質問し合うこともできる。

S<sub>1</sub> 「……。小麦は刈り取られ……。パン生地はかまに入れられ……」

S<sub>2</sub> 「……。私は毎日ブラシをかけられ……」

S<sub>3</sub> 「……。郵便袋は空港に運ばれて飛行機に積み込まれ……」



(練習方法 4) 行為者が不特定多数の事柄についての叙述・描写

### 例 1 新聞記事

自国語の新聞でもよいから、読んだ記事の中から、主体が不特定多数者であるような内容のものを受身表現を使って報告させる。その際、報道でよく使用される単語を予め与えておく。例えば、開催される、行われる、(展)示される：考えられる、見なされる、みられる、言われ(て)いる、知られている、～(な)される、予想される、注目される、重(軽)視される：許(可)される、認められる、問われる、伝えられる、求められる、誤せられる、きらわれる、望まれる、etc. 例文：首脳会議が東京で開かれる。政界不祥事は国際的にも注目されている。法による規制が求められる。

### 例 2 年中行事

ある行事の中で行われる事柄について述べさせる。例：お盆の供養では、花が供えられ、灯籠に火がともされる。

各国の宗教的・歴史的行事、新年や学校の行事、各月ごとの行事を思い出させるとよい。

### 例 3 歴史上の事実や将来の展望

例：民話が伝えられてきた。/ 近隣諸国に侵略された。/ 嫁は一家の労働力として迎えられた。/ 平和な世界が作られるだろう。

### 例 4 一般的人情や感情

例：日本では「四」という数がきらわれる。/ 伝統的に偶数よりも奇数の方が好まれる。/ あの山には鬼がいると恐れられている。/ お年寄りに喜ばれる贈物は何ですか。

(以上、安齋幸枝担当)

## 76. V そうだ

### V そうもない (L37)

可能性を表現する時によく用いられるが、可能性の否定的表現を二人称三人称で用いることは、その人の能力を否定することになりかねないので、その点注意が必要であることを学生には予め注意しておく必要がある。

(練習方法 1-①)

相撲とりがセーター LL サイズのセーター M サイズのセーター  
を着る



(着られそうだ)

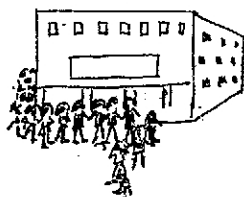
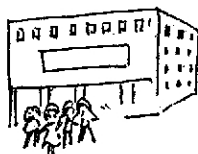
(着られそうもない)

(練習方法 1-②)

映画館の前に4,5人並  
んでいる

映画館の前に大勢並ん  
でいる

映画を座って見る



(座われそうだ)

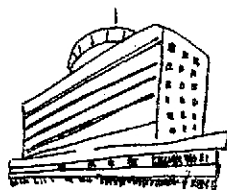
(座われそうもない)

(練習方法 1-③)

そばや

ホテルニューオータニ

3000 円の会費で忘  
年会をする



(借りられそうだ)

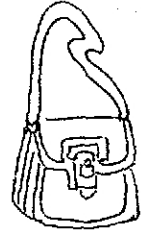
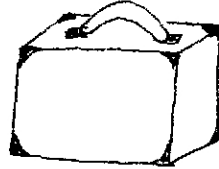
(借りられそうもない)

(練習方法 1-④)

10日間の旅行荷物を  
かばんに入れる

スーツケース

バッグ



(入りそうだ)

(入りそうもない)

(練習方法 1-⑤)

デート費用2人で  
5000円

映画とラーメン

映画とフランス料理

(足りそうだ)

(足りそうもない)

(練習方法 6)

会話の練習として2,3人のグループ分けをし、それぞれのグループで何かの結果を予想した会話を作らせる。

例 ① ジャイアンツの優勝の行方

S<sub>1</sub> 「S<sub>2</sub>さん、今年のジャイアンツ、どうでしょうね。勝てそうですかね。」

S<sub>2</sub> 「そうですね。今年はいいんじゃないですか。」

S<sub>1</sub> 「カープはどう思いますか。」

S<sub>2</sub> 「勝てそうですよ。」

S<sub>1</sub> 「じゃ、タイガースは。」

S<sub>2</sub> 「うーん。このチームはしばらく勝てそうもないですね。」

② 人間の限界

S<sub>1</sub> 「いよいよ今年はオリンピックですね。」

S<sub>2</sub> 「そうですね。」

S<sub>1</sub> 「カール・ルイスは9秒5を切れますかね。」

S<sub>2</sub> 「切れそうもないですね。」

今世紀中に人間が9秒5を切ることはできそうもないですよ。」

③ 買物

S<sub>1</sub> 「スーパーへ行くけど何か買ってくるものある。」

S<sub>2</sub> 「そうね。おしょうゆがもうすぐなくなりそう。」

S<sub>1</sub> 「うん。わかった。買ってくる。」

(練習方法 7) ごめんなさい

楽しみにしていたことが、何かの理由で実行できなくなったことを知らせる。

例 ① S 「明日のコンサートを楽しみにしていたのですがかぜをひいて、熱が下がりそうもありません。」

② S 「車がこんでいて、約束の時間に間に合いそうもありません。」

(以上、久光直子担当)

## 77. 敬語 (L38~L39)

「敬語」はいわゆる文型として扱うべきものではないが、ここにまとめて示しておくことにする。

初級の段階で敬語を教育する必要はない、といった意見もあるかもしれないが、第1課から「です・ます」を用いている以上、少なくとも「待遇表現」の観点を無視して表現指導を行うことは不可能であろう。敬語を「尊敬」や「謙讓」といった語義にこだわって考えることは、現在の日本語の状況から見ればほとんど意味をもたない。人間関係や場に対する配慮に基づく言葉の使い分けということで敬語表現を捉えれば(つまり待遇表現として敬語を捉えれば)、相手を必要としない表現でないかぎり、初級の第1課から表現練習はすなわち待遇表現練習ということになるのである。したがって、その意味ではこれまでの応用表現練習のほとんどすべてが待遇表現練習ということになるわけである。ただしそうはいっても、狭い意味での敬語である「いらっしゃる」や「申し上げる」などを特に意識させ

た練習を行う必要もあるだろう。ここでは学習者がそうした敬語一語一語の基本的な意味・用法は一応理解しているという前提に立って、待遇表現としての敬語の応用練習、総合練習の方法について考えていきたいと思うが、まずその前提部分に関する留意点を簡単に述べておくことにする。

いわゆる「尊敬語」の、「いらっしゃる」「おっしゃる」「くださる」「ご覧になる」「なさる」「めしあがる」「お・ご~になる」「お・ご~なさる」「~(ら)れる」「お・ご~くださる」などは、その語や語形式で表される意味とともに、その動詞がだれの動作・状態なのかを理解させることが大切である。その動詞の主体を高く待遇しているということが理解できれば、尊敬語の誤用はかなり少なくなるといえよう。

いわゆる「謙譲語」の、「いただく」「うかがう」「さしあげる」「申し上げる」「お・ご~する」などは、尊敬語であげた留意点を加えて、だれに対する動作であるかを理解させる必要がある。その動詞の対象となる主体を高く待遇するということが理解しにくいいため誤用も多くなるのだが、いつも「だれが」「だれに(対して)」ということを明確にさせてくことが大切である。

「丁寧語」といわれる「いたし(ます)」「おり(ます)」「ごさい(ます)」「まいり(ます)」「もうし(ます)」などは、それがだれの動作・状態かということと同時に、どのような場で用いられるのかということが重要な点となる。つまり相手が目上であるということだけではなく、改まった場で用いる語なのだということを理解させる必要がある。

「丁寧語」についてだが、「です・ます」は初級における基本形であり、「だ・である」との対応も形式的にはあまり問題はないといえよう。ただし、相手や場に基づく「です・ます体」と「だ体」の使い分けは実際にはかなりむずかしい。最低限失礼にならないような表現をするという点からすれば、親しい友人以外には「だ体」は用いないほうがよいと思われる。「でございます」は「ございます」とともに初級の学習者が使いたがる傾向にあるが、実際に用いたほうがよいといえる場はほとんどないので理解語

として扱っておいてよいだろう。

このほか名詞についての敬語としては、「お礼」「お電話」「ご説明」「ご報告」「ご返事」など謙譲語として用いられるものに注意する必要がある。「お・ご」は自分や自分側の動作や事物にはつけない、などと誤った指導をしないようにしたい。

以上、敬語指導の前提部分に関する基本的な留意点について述べてきたが、もちろん初級の段階でこれらの語をすべて習得させることはできないし、またさせる必要もない。初級では基本的に、目上の相手に失礼にならないように、あるいは敬語が使えなかったために誤解されることのないように、尊敬語+「です・ます」が正確に用いられればよいと考えている。

練習方法に関する全体的な留意点としては、人間関係や場の設定を明確にするということと同時に、学習者に現実感をもたせることが大切であろうと思う。教室に他の教師や初対面の人をつれてくる、あるいは教室の外に出て実際に多くの人と接するようにさせる、といったことが可能であればそれに越したことはない。しかし教室内学習であっても、いろいろな役割を設定したり(例えば、社長、部長といった名札をつけさせると、学習者は次第にその役割を意識し演じるようになる)、緊張感をもたせるために、自己紹介や記者会見の設定のときには VTR 撮影をしたりすることなどで、かなり擬似的な現実感をもたせることはできる。他の表現練習にも増して、練習をさせるための状況設定が大切になってくるといえよう。

#### (練習方法 1)

基本的な表現意図別の練習。人間関係をあまり複雑にすると詳細な説明が必要となり学習者を混乱させるので、表現主体は学習者自身、相手は基本的な尊敬語+です・ますを用いる対象となる教師や上司などに設定する。

これらの練習は敬語の形や一文の丁寧度よりも、表現意図を叶えるまでの展開の仕方に注意させることが大切である。

## ① 質問

(授業時にする質問)

S 「すみません。(質問があります。)」

T が黒板のほうを向いていたなら、振り向くあるいは返事をするのを待つから質問に入る。

S 「～についてよくわかりませんので、説明してください。」

「この言葉の意味がよくわからないんですが。」

この場合は「説明していただけますか」「ご説明くださいますか」「説明していただけるとありがたいのですが」などとは言わないようにさせる。T が授業中に説明するのは当然の仕事であるため、特別に丁寧な敬語は必要ない。しかしそれ以上に大切なことは、この場合は「すみません、質問したいことがあるんですがよろしいでしょうか。」といった相手に対する許可求めや長い前置きが不要だということである。

(授業外にする質問)

S 「すみません。質問したいことがあるんですが、(今よろしいですか。)/「すみません。お聞きしたいことがあるんですが、(今よろしいでしょうか。)」

T 「どんなことですか。/はい、何でしょう?」

S 「この言葉の使い方がよくわからないんですが、教えていただけますか。」「大学院に進学したいんですが、どういう勉強をすればいいんでしょうか。」

この場合には T の義務の度合いが低くなるため、質問するまでの前置きが必要になる。つまり、丁寧度の高い敬語を覚えさせることよりも、どういう展開で自分の表現意図を叶えていくかという方法を習得させることのほうが大切なのである。ここを誤ると言葉は丁寧だが失礼だということになってしまうからである。

質問する場は研究室という設定にして、学習者を教室の外に出し、ドアをノックして入ってくるところから練習させるとよい。

S ノック

T 「はい、どうぞ。」

S 「失礼します。」

中に入って、教師のところ近づいてから、上記の展開に移る。

## ② 依頼

依頼もその依頼内容の程度によって、また依頼できる相手かどうか、依頼できる状況にあるかどうかなどによって展開が異なってくる。

(事務所での依頼)

S 「すみません。成績 / 修了証明書をお願いしたいんですが。」

この場合には簡単に依頼可能な内容・相手・状況であるため、前置きなしに依頼ができる。ただし、次のような場合には前置きや事情説明が必要となる。

S 「すみません。ちょっとお願いしたいことがあるんですが。」

T (事務職員) 「はい、どんなことでしょうか。」

S 「じつは、今日の3時に山田先生に本をお返しすることになっていたんですが、急用ができて帰らなければならなくなっちゃったんです。それで、申し訳ありませんが、この本を山田先生に渡していただけないでしょうか。」

(研究室での依頼)

S ノック

T 「はい、どうぞ。」

S 「失礼します。」

S 「すみません。先生をお願いしたいことがあるんですが、今よろしいでしょうか。」

T 「はい、どんなことですか。」

S 「じつは、〇〇奨学金を受けるために推薦状が必要なんです、それを書いていただけないでしょうか。」

展開を誤らなければ、表現は「今よろしいですか」「書いていただけます



か」「書いていただきたいんですが」などとなっても特に問題はない。いきなり「先生、推薦状をお書きいただけませんか。」と言うほうが、段階を踏んだ「書いてください」よりかえって失礼な感じを与えるといえよう。

### ③ 勧誘

#### a 勧めるとき

S 「先生、コーヒーいかがですか。」

T 「あ、どうもありがとう。」

S 「先生、もしよろしかったら、どうぞ。」「先生、よろしかったら、お使いください。」

相手の利益になると思われるものを提供したり、勧めたりするときには相手の意志を聞かないほうがむしろ丁寧になる。「コーヒーお飲みになりたいですか」「お使いになりたいですか」などとはいわないようにさせる。

#### b 誘うとき

相手の利益になると思われる場合には前置きは不要となるが、それが不明の場合には誘うことのできる相手・内容・状況かどうかを確認してから本題に入るようにする。

S 「先生、来週の日曜日はお忙しいですか。/ 何かご予定がごありますか。」「先生は歌舞伎はお好きですか。/ 歌舞伎にご興味はありますか。」

T 「いや、特に用事はないけど。何か?」「ええ、好きですよ。」

S 「歌舞伎のチケットが手に入ったんですが、もしよろしかったらいらっしやいませんか。/ いかがですか。」

相手の利益にならないと思われる場合には、依頼と同様に「ていただけませんか」などという表現となる。

S 「日曜日に私の家でパーティーをするんですが、来ていただけますでしょうか。」

ここでも「いらっしゃりたいですか」などとは言わないように注意する。

#### (練習方法 2) 自己紹介・スピーチ

主に丁寧語の練習として行う。ただ自由に自己紹介やスピーチをするというのではなく、「いたします」「(て)おります」「(て)まいります」「もうします」などを用いて行う。

基本的には、つぎのようになる。

S 「はじめまして。私は〇〇からまいりました〇〇ともうします。現在〇〇大学で〇〇を専攻しております。……。……。どうぞよろしく願いたします。」

丁寧語を使う場は実際にもそう多くはないので、こうした自己紹介ができるようになればとりあえず困ることはないといえよう。またスピーチに丁寧語を使わせると、不必要に長いスピーチをする学習者は出なくなる。

#### (練習方法 3) インタビュー

① 主に尊敬語の練習としてインタビュー形式をとる。インタビューを受ける人はできれば日本人がよいのだが、学習者同士の場合でも練習はできる。

最初はインタビューは役割を演じるというのではなく、実際に学習者自身の興味や関心もてるような相手を設定した上でインタビューするほうがよい。例えば日本の歴史に興味がある学習者の場合には歴史学の教授にインタビューするという設定のほうが質問がしやすく、また敬語を用いて質問するという現実感が出るわけである。しかし、インタビューを受ける側の知識の問題もあるので、叶えられない場合にはいろいろな役割を設定することになる。

インタビューの形式も、一対一から一対多までいろいろできる。研究室を訪ねてそこで行う、あるいはテレビのインタビュー番組という形式で、また街頭インタビューという設定で実際に教室の外に出て行ってもよい。

また、ただインタビューさせるだけでなく、インタビュー後それにつ

いて報告させると、相手の話を真剣に聞きメモするようになる。報告の形式の一例はつぎのようになる。

S 「今日は歴史学の山田先生に、いろいろとお話を伺いました。それをご報告いたします。まず、...についてお聞きしましたが、山田先生は...とおっしゃいました。つぎに、...について伺いましたが、...だそうです。先生は...(いらっしゃる / なさる / お~になる)そうです。...。以上です。」

## ② 記者会見

基本的にはインタビューと同様になるが、総合練習として行う場合には、実際の記者会見場のようにし、進行役、記者、政治家・映画スターなどの役割を決めて、質問側は尊敬語や謙譲語を、答える側はできるだけ丁寧語を用いるようにするとよい。

## ③ 面接試験

大学や大学院の面接、入社、入会のための面接などという設定で行う。面接官は数人で質問には尊敬語を、面接者はできるだけ謙譲語や丁寧語を用いるようにするとよい。

### (練習方法 4) 電話・手紙 → 訪問

総合練習として、大学あるいは自宅に電話して教師に何かを依頼するためのアポイントメントをとり、その後研究室あるいは自宅を訪ねて正式に依頼するという練習を行う。あるいは、最初に手紙を出し、つぎに電話をして、訪問するという順序で行ってもよい。

かなり高度な練習になるが、初級は初級なりのレベルで練習は可能であろう。まず教室で部分の練習をして、それから実際に電話をし、手紙を書いてみるのが大切である。

(以上、蒲谷 宏担当)

## 78. V ために (L40)

客観的な目的、理由を述べる場合に使用されることが多く、会話。文章の練習の際、状況設定はフォーマルにしたほうがよい。

(練習方法 1-①) 証明書の請求

例 証明書の請求理由を書く

|              |
|--------------|
| 在学証明書        |
| 氏名           |
| 学部           |
| 学科           |
| 使用目的         |
| パスポートをとる ために |

- このほかに
- 成績証明書
  - 卒業証明書
  - 通学証明書
  - 在籍証明書 等に利用可能

(練習方法 1-②) 遅刻、欠席等の理由(口頭でなく筆記の形態をとる)

例

|                 |
|-----------------|
| 会議欠席届け          |
| 私 _____ は       |
| <u>出張</u> の ために |
| 会議に欠席いたします      |

- このほかに
- 試験遅刻届け
  - 授業遅刻届け
  - 長期欠席届け
  - 退学、退部届け
  - 退職届け 等に利用可能

(練習方法 3) 伝言ゲーム

フォーマルな意味をもたせるために遅刻、欠席等の理由を友人など第三者に代わって言ってもらう。

例 S<sub>1</sub> 「S<sub>2</sub>さんは、お父さんが国からいらっしゃったために今日は学校を休むそうです。」

S<sub>2</sub> 「S<sub>1</sub>さんは、お子さんが病気のために、今日はこられないそうです。」

(練習方法 4) あなたもコピーライター

コマーシャルを作らせる。

例 胃腸の弱い人のために生協のポンポン OK。

飛行機嫌いなあなたのために豪華客船の旅。



例

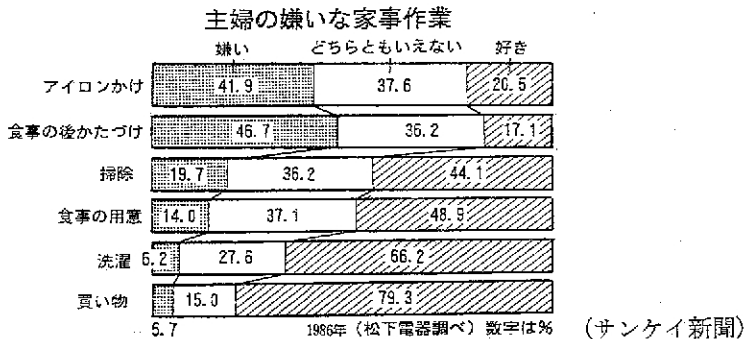
|                  |       |
|------------------|-------|
| 内 用 薬            |       |
| カール・スミス殿         |       |
| 食前・(食後)・食間       |       |
| (毎朝)・(昼)・(夜)・ねる前 |       |
| 散 剤              | 1回1包  |
| 錠 剤              | 1回2錠  |
| カプセル             | 1回__個 |

S<sub>1</sub> 「散剤は1回に1包，錠剤は1回に2錠毎食後に飲んでください。」

(練習方法 2-①) グラフを見て考えよう。

グラフを見てどういことがわかるか各自答えさせる。

この時、20%であれば5人に1人というように答えなければならないため、あまり細かい数字だと考えるのに時間がかかる。そのため計算しやすい数が望ましい。

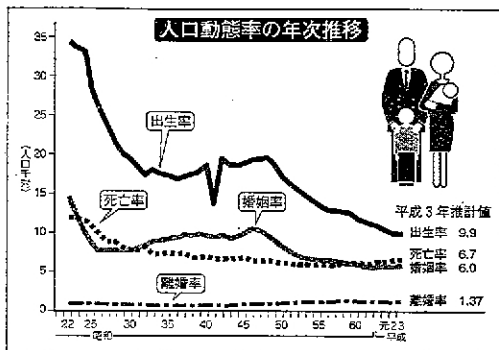


S<sub>1</sub> 「アイロンかけの好きな主婦は5人に1人しかいません。」

S<sub>2</sub> 「掃除は5人に1人が嫌いです。」

(練習方法 2-②)

これは、結果がグラフから表にできているので、考える必要はなく表に書かれていることを使って、ニュースキャスターのレポートのようにする。



(平成3年)

| 平均発生間隔 |          |
|--------|----------|
| 結婚     | 44秒に1組   |
| 出生     | 26秒に1人   |
| 離婚     | 3分20秒に1組 |
| 死亡     | 38秒に1人   |

(サンケイ新聞)

S<sub>1</sub> 「平成3年度に結婚したカップルは44秒に1組おり、3分20秒に1組のカップルが離婚しています。」

(練習方法3) 1日にどこぐらい?

例 医者と患者の会話で、嗜好品、スポーツ等について聞く。

Dr. 「タバコを吸いますか。」

P. 「はい。」

Dr. 「どのくらいですか。」

P. 「1日に5,6本です。」

Dr. 「お酒は。」

P. 「そうですねえ。1日にビール2本ぐらいです。」

(練習方法4) 物価高に悩む学生の会話

この他に練習方法5に示してあるようなことを話題としてもよい。

例 S<sub>1</sub> 「S<sub>2</sub> さん、1ヶ月にいくらぐらい生活費を使ってる。」

S<sub>2</sub> 「そうですねえ。だいたい10万円ぐらいかな。」

東京は物価が高いからねえ。

でも、郊外に住んだら1ヶ月に7,8万円でもだいじょうぶみたいよ。」

(練習方法 5) 街頭インタビュー

各自で質問を考え、クラス全員にインタビューし、その結果をグラフにする。これを(練習方法 2)にも活用できる。

- 例 S<sub>1</sub> 「あなたは1年に何回ぐらい旅行をしますか。」  
S<sub>2</sub> 「あなたは1日に何分ぐらい電話をしますか。」  
S<sub>3</sub> 「あなたは1週間に何回家族と食事をしますか。」  
S<sub>4</sub> 「1ヶ月にどのぐらい本を読みますか。」  
S<sub>5</sub> 「よく外食をしますか。」  
S<sub>6</sub> 「よく学生時代の友達と会いますか。」

80. N / V までに (L40)

特定された時刻や時間内に行動が終了することを示すために用いることが多い。

(練習方法 1) あなたならどうする

特定された時刻(年月、季節)内にある行動が完了するような文章を作成し、計画表を作らせる。

この計画表から次々に、予定を発表させる。

例 私は今年の10月に結婚します。

|          |    |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |
|----------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| カレンダーの月  | 1  | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 行動日までの月数 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1  |    |    |

式場を決める

アパートを捜す

家具を捜す

衣裳を決める

い始める  
エステティックへ通

料理を決める

引き出物を決める

招待状を出す

結婚式

- ① 10ヶ月前までに式場を決める。
- ② 3月までにアパートを決める。
- ③ 4月までに家具を捜す。



④ 2ヶ月前までに招待状を出す。

同様に下記のような事例でも練習できる。

|      |                            |      |   |             |
|------|----------------------------|------|---|-------------|
| Nまでに | 21世紀までに<br>30歳までに<br>来年までに | Vまでに | } | 帰国するまでに     |
|      |                            |      |   | 友達が遊びにくるまでに |
|      |                            |      |   | 課長が帰ってくるまでに |

(練習方法 2-①)

人に物を依頼する時、頼む側と頼まれる側で、条件があれば依頼はスムーズに進むが、双方の条件があわない時、依頼は先へ進まない。故に、ここでは、特に条件をつけて練習を行なう必要がある。

クリーニング屋で(クリーニング屋、客の双方の条件に問題のないとき)

客 「これ、お願いします。」

クリーニング屋 「はい。あさっての火曜日にできます。」

「毎度有難うございます。」

この場合は、双方に問題がないので、練習目的の $\left(\frac{N}{V}\text{までに}\right)$ は使う必要がない。

(練習方法 2-②)

クリーニング屋で(客が期日を指定して OK のとき)

客 「これ、火曜日(あさって)までにできますか。」

クリーニング屋 「あさってですか。大丈夫ですよ。」

客 「じゃ、お願いします。」

クリーニング屋 「はい。毎度有難うございます。」

(練習方法 2-③)

クリーニング屋で(客が期日を指定してダメなとき)

客 「これ、火曜日(あさって)までにできますか。」

クリーニング屋 「あさってですか。水曜日(しあさって)でしたらなんと  
か。」

客 「じゃ、お願いします。/ じゃ、いいです。」

同様に写真屋、靴の修理屋、出前等に利用可能

(練習方法 3-①) 病院で

S<sub>1</sub> 「受付は何時までですか。」

S<sub>2</sub> 「11時までです。11時までに来てください。」

(練習方法 3-②) 図書館で

S<sub>1</sub> 「いつまで借りられますか」

S<sub>2</sub> 「2週間ですから来月の10日までに返してください。」

(以上、久光直子担当)

なお最後に、検索の便をはかり、初級文型応用表現練習法 (1)~(3) (『講座日本語教育』第 25~27 分冊) で取り上げた初級文型すべての一覧を掲げておく。

初級文型応用表現練習法 (1)~(3) 総目次

|   |                |
|---|----------------|
| 1. $N_1$ は $N_2$ です (L1)                  | 第 25 分冊 p. 120 |
| 2. こ, そ, あ, ど (L1, L2)                    | p. 120         |
| 3. 数の数え方 (L2)                             | p. 121         |
| 4. $N_1$ の $N_2$ (L3)                     | p. 122         |
| 5. $N$ は $A_j$ です (L3)                    | p. 122         |
| 6. $N$ は $A_jN$ です (L4)                   | p. 122         |
| 7. $N$ は $V$ ます (L5)                      | p. 123         |
| 8. $N_1$ は $N_2$ へ / に $V$ ます (L5)        | p. 124         |
| 9. $N_1$ は $N_2$ を $V$ ます (L6)            | p. 125         |
| 10. $N_1$ は $N_2$ で $N_3$ を $V$ ます (L7)   | p. 125         |
| 11. 日付, 曜日 (L7)                           | p. 126         |
| 12. $N_1$ は $N_2$ (場所) にあります (L8)         | p. 127         |
| 13. $N_1$ は $N_2$ (場所) にいます (L8)          | p. 128         |
| 14. $N_1$ (場所) に $N_2$ があります<br>がいます (L9) | p. 130         |
| 15. $N$ (場所) になにかありますか<br>誰かいますか (L9)     | p. 132         |
| 16. 「どういたしまして。」 (L10)                     | p. 134         |
| 17. 「こちらこそ。」 (L10)                        | p. 135         |
| 18. 「(いいえ,) とんでもない。」 (L10)                | p. 135         |
| 19. 「(どなたか) をお願いします。」 (L10)               | p. 136         |
| 20. 「A ですか, B ですか。」 (L10)                 | p. 136         |
| 21. 「いいえ, けっこうです。」 (L10)                  | p. 137         |

22. 一つ, 二つ... (数詞) (L10) p. 138
23.  $N_1$  が  $N_2$  に V ました (L11) p. 138
24.  $A_j$  たです p. 138  
 $A_jN$  でした (L12)
25. もう, まだ (L12) p. 140
26. まだ A / N / V ですか (L12) p. 141
27. A から B まで (L13) p. 145
28. どうやって V ますか (L13) p. 146
29. V てください p. 148  
V ないでください  
V てくださいませんか (L14)
30.  $V_1$  ないで  $V_2$  (L14) p. 150
31. V ましょう (か) (L14) p. 152
32. あげる / もらう / くれる (L14) p. 154
33.  $N_1$  は A で,  $N_2$  は B です p. 156  
N は A で, B です  
 $N_1$  は, A で B  $\begin{pmatrix} \text{の} \\ \text{な} \end{pmatrix}$   $N_2$  です (L15)
34. A (原因) で  $\begin{cases} V \text{ (評価・結果) ます} \\ A_j \\ A_jN \text{ (評価・結果) です} \end{cases}$  (L15) p. 158
35.  $N_1$  や  $N_2$  (L15) p. 159
36.  $A_j$ -く,  $A_jN$ -に (L16) p. 161
37. V なさい (L16) p. 163
38. V ています (L17) p. 164
39.  $N_1$  を  $V_1$  に  $N_2$  (場所) へ / に  $V_2$  ます (L18) p. 169
40.  $V_1$  ながら  $V_2$  (L20) p. 176
41.  $V_1$  てから  $V_2$  (L20) p. 176

|     |  |                |
|-----|--|----------------|
| 42. | —そうです(様相) (L20)                            | p. 177         |
| 43. | V てあげる, V てもら, V てくれる (L20)                | p. 178         |
| 44. | A たり B たり (L20)                            | p. 178         |
| 45. | —のです (L21)                                 | p. 179         |
| 46. | V ています(結果の状態) (L21)                        | p. 180         |
| 47. | N に なります                                   | 第[26]分冊 p. 248 |
|     | AjN に なります                                 |                |
|     | Aj く なります (L22)                            |                |
| 48. | V たい (L22)                                 | p. 250         |
| 49. | N <sub>1</sub> より N <sub>2</sub> のほうが A です | p. 251         |
|     | N がいちばん A です                               |                |
|     | もっと A です (L23)                             |                |
| 50. | A ので B (L23)                               | p. 252         |
| 51. | N が V てあります (L24)                          | p. 253         |
| 52. | N <sub>1</sub> は N <sub>2</sub> が~ (L24)   | p. 254         |
| 53. | N は~でしょう / だったでしょう                         | p. 255         |
|     | / ないでしょう / なかったでしょう (L25)                  |                |
| 54. | V てもいいです                                   | p. 256         |
|     | Aj てもいいです                                  |                |
|     | N てもいいです (L26)                             |                |
| 55. | V てはいけません (L26)                            | p. 258         |
| 56. | V なければなりません (L27)                          | p. 259         |
| 57. | しかし / けれども / でも (L28)                      | p. 261         |
| 58. | ですから / だから / それで (L28)                     | p. 262         |
| 59. | —そうです(伝聞) (L28)                            | p. 262         |
| 60. | V たんです (L28)                               | p. 263         |
| 61. | V てしまいました (L28)                            | p. 264         |
| 62. | それに (L28)                                  | p. 264         |

63. V れる / られる / 可能動詞 p. 264  
V ことができる (L29)
64. V れる / られるようになる (L29) p. 265
65. ~だけ p. 266  
~しか (L29)
66. N(人)を / に V せる / させる 第27分冊 p. 163  
N<sub>1</sub>(人)に N<sub>2</sub>(事柄)を V せる / させる(使役) (L30)
67. 一ほうがいい (L30) p. 165
68. 一ようにする (L30) p. 168
69. 一はずです (L31) p. 169
70. 一つもりです (L31) p. 170
71. 一ようです p. 171  
一らしいです (L31)
72. 一かもしれません (L31) p. 172
73. と / ば / たら / なら (L32~L35) p. 172
74. V う / V ようと思います (L33) p. 176
75. N(人)が V れる / られる p. 177  
N<sub>1</sub>(人)が N<sub>2</sub>(人)に V れる / られる  
N<sub>1</sub>(人)が N<sub>2</sub>(人)に N<sub>3</sub>(事物)を V れる / られる(受身) (L36)
76. V そうだ p. 182  
V そうもない (L37)
77. 敬語 (L38~L39) p. 185
78. V ために (L40) p. 192
79. N<sub>1</sub>(数詞)に N<sub>2</sub>(数詞) (L40) p. 194
80. N / V までに (L40) p. 197